

令和2年度 山王保育所事業報告

1. 概要

①運営報告

- 今年度4月1日付の入園児童数が92名になり、当初予定していた利用定員90名から100名に変更になりました。そのため年間の収入は予算に比べて減額となりました。
- 今年度も途中入園児が多くその都度保育の雇い入れが必要になりましたが、うまく採用人事が進まず、最終的には派遣会社からの紹介でフルタイムの職員を2名、6.5時間パート1名、4.5時間パート1名を採用し、対応しました。
- 新型コロナウイルスの流行により、地域交流、保・幼・小の連携、老人施設との交流等、地域との直接的な交流が全て中止になりました。また、行事の見直しと変更を行い、保護者に協力をいただきながらの1年になりましたが、コロナ禍で衛生管理の徹底や、保育環境、生活の見直し等、本部からの指導を職員と共に考え進めることで浸透することができメリットとなることも多々ありました。
- 6月の就職フェアから14名の園見学に繋がりそこから3名の採用になりました。

②定員 100名（定数外4名） 合計104名（令和3年3月）

③事業日数 293日（日曜、祝日及び12月29日より1月3日は休園）

④開所時間 平日7:30～18:30 土曜日7:30～18:30

⑤保育時間 標準時間保育 7:30～18:30 短時間保育 8:00～16:00

⑥職員数

園長 1名、主任 1名 保育士 20名（うち派遣会社保育士4名・パート保育士4名）

看護師 1名 栄養士1名 調理員 3名（うちパート調理員2名）

嘱託医（内科、歯科）各1名（内科年4回、歯科年1回 健診）

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子供社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分に発揮し、人として『生きる

力』を育む。

- 保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる保育の場を提供する。
- 地域における子育て支援の為、保育に関する相談や助言の役割を果たす。

③保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラスの編成及び職員配置

0歳児	さくらんぼ組	12名	保育士4名（内パート保育士2名）
1歳児	いちご組	16名	保育士3名（内パート保育士1名）
2歳児	もも組	18名	保育士3名（内パート保育士1名）
3歳児	くり組	18名	保育士2名（3歳児加配パート保育士1名）
4歳児	みかん組	21名	保育士2名（うち障がい児加配保育士1名）
5歳児	かき組	19名	保育士2名（うち障がい児加配保育士1名）

合計園児数 104名 保育士16名

H31年度 4月92名 5月98名 6月98名 7月97名 8月99名 9月101名
10月102名 11月101名 12月101名 1月103名 2月103名
3月104名

H31年度 4月92名 → 3月104名

障がい児保育担当保育士 2名（正職1名・契約職員1名）

フリー保育士 1名

⑤保育内容

- 乳幼児ともコロナ禍で生活の仕方が変わったものの、園生活には戸惑うことなく慣れ、少人数で活動することが多くなったことで落ち着いて過ごすことができた一方、縦割りの活動や地域との交流、社会との繋がりが少なくなったことに今後の課題を感じました。
- 毎朝の「じゃれつき遊び」「朝の意味ある運動」は夜型生活の子どもの身体が目覚め、身体能力の向上、空間認知だけでなく、子どもの気持ちの安定につながることを実感しました。今後に向け再度目的を明確にし、職員の意識を高め、毎朝必要不可欠な時間として位置づけ取り組みます。
- 乳児クラスは少人数での食事をすることが定着し、食べ方がきれいになってきました。それぞれの子どもの嗜好はありますが、苦手なものも一定量食べることができ、食べるのが好きな子どもたちに育ってきています。乳児から幼児クラスに移行後も、静かに落ち着いて食事の時間を楽しむ姿が見られます。
- 保健指導は毎月テーマを決め看護師により行いました。今年度は特に衛生についてパネルやペーパーサートを使い丁寧に指導しました。また、各年齢に合わせて子どもが理解しやすい内容で行うことによりトイレの使い方や、手洗いが丁寧にできるようになりました。
- 食育では年間食育計画に基づき、野菜の栽培や、収穫、クッキングを行いました。クッキングは

感染予防で内容は変更しましたが、旬の食材に触れる機会を多く持ち、見て、触って、匂って、味わっての機会を多く持ちました。また、4・5歳児は包丁やピーラー等道具の使い方を経験しました。

その他、栄養士が魚を捌く所を子どもたちが見学し、その様子を見ることで本当に命をいただいていることを実感し「いただきます」「ごちそうさま」の意味が子どもたちによく伝わったと思います。今後も継続し、食への感謝の気持ちを育んでいきます。

- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」を題材に人権教育を行いました。自分の日常生活に置き換えて考えることはまだ難しいものの、子どもたちと話し合っているときは、良い意見がでます。それを日常の中で気づいていけるように保育者が場面を捉え伝えていくことが大切と考えています。そして、一人ひとりの子供の人権を尊重した保育を行います。

⑥家庭との連携

家庭訪問（5月）、懇談会・保育参加（6月）保育を楽しむ日（11月）、

クラス懇談会（6月・11月）個人懇談会（2月）

- 保護者の価値観や子育てに対する意識がますます多様化し、子育てへの不安や悩みもある中で、当園においても保護者優先の子育て傾向が散見されます。子どもが泣いたら、動画を見せゲームをさせることで泣き止ませ、本来の子どもの気持ちが置き去りにされているように感じます。そこで、担任が保護者一人ひとりに合わせたアドバイスや、ドキュメンテーションを一緒に見ながらどんな遊びが好きなのか、その子の成長を伝えこれから大切に育てたいことを一緒にやっとうと誘いかけていました。保護者も担任との信頼関係が深まることで次第に相談してくれる事が増えてきています。
- 「早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチ」を提唱し続けています。4～5歳児は子どもの中に「早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチ」の大切さは理解できています。子どもからお母さんに伝えている様子も見られます。大半の家庭が毎朝朝食を摂り9時までに登園しています。排便も今までは給食後にすることが多かったものの、日に日に減少しています。一方、乳児クラスでは保護者の夜型生活によりで入眠させる時間が遅く子どもの生活リズムが整わないケースもあります。今後も根気強く、懇談会、連絡帳、配布物等で情報発信をします。
- 要対協で見守りが必要な家庭は、毎日記録をとり関係機関と連携して見守りを続けています。
- 発達が気になる子どもの保護者と話し合い、必要に応じて発達相談に結びました。
今年度は保育所から療育施設に通う子もおり、家庭、保育所、療育施設3者で連携を図り、一人ひとりの支援を行いました。

⑦人材育成

- 今年度は乳児担当の保育士と幼児担当の保育士を入れ替え、乳児から幼児への発達と繋がりのある保育を目指しましたが、初めての乳児保育担当に戸惑いクラス運営に余裕がなくなり、幼児に向かう発達の視点から乳児期をとらえることができませんでした。計画通り一年では成し遂げられませんでした。乳児クラス幼児クラス偏りなく担任することにより、繋がりのある保育をより意識できるようにしていきます。

- 0歳児から5歳児までの繋がりを全体的な計画、発達過程を通して職員全体で確認し、年間指導計画を作成しましたが、その目的や到達点への意識が薄くなった部分もありました。毎日の保育の意味づけや、それが何に繋がっていくかを、特に複数担任は共通理解をして取り組む事をこれからの課題と考えています。
- 子どもへの指示命令ではなく、子どもが考えることができる言葉かけや、必要以上の声掛けはやめ、見守りの、個々の子どもの発達を捉えることは意識して行いました。これからも、職員全体で取り組み、お互いが注意しあえる関係性を作ります。
- リーダー会議、クラス会議、乳児会議、幼児会議の機会を計画的に進め、少人数での話し合いを設けました。自分の意見を持ち、発言する、また、相手の思いに気付く、受け止めるコミュニケーションを図る機会を多く持ちました。
- 法人の理念・方針に沿った個々の職員の個別研修計画を立て、園内外の研修に参加しました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業（月刊誌「はぎっず」にて周知しました）

- 毎月4回の保育所体験はコロナウイルスの流行により中止しました。

地域活動

- 保・幼・小の連携は中止になりました。
- 地域との交流はすべて中止になりました。

小学校との接続

- 近隣の小学校の先生に保育参観にきていただき、意見交換会を行いました。
- コロナウイルスの流行により小学校見学は中止しました。

⑨苦情処理

- 第三者委員2名を設置し、園のガイドブックや掲示または、入園説明会にて苦情解決システムを保護者に周知しました。
- 苦情解決担当者を主任保育士として、意見箱の設置や保護者アンケートも行き、苦情や意見を受け付けました。寄せられた意見については概ね24時間以内に回答書を貼り出し協議中の事案については経過の報告をします。今年度苦情はありませんでした。
- 転園や卒園の意見や相談について園長が窓口として受け付けています。今年度、相談はありませんでした。
- 保護者からの意見や要望には速やかに対応し、直近の昼礼や職員会議で報告し職員皆で共通理解を図りました。

⑩リスクマネジメント

- 危機管理委員会を中心にマニュアルを見直し、新たに作成しました。全職員周知に至っておらず、次年度への課題としています。
- 新型コロナウイルスの予防対策としてマスクの着用、保護者と子どもの入室前の手指の消毒の励行、体温体調を毎日チェックし健康管理表に記入して毎朝提出していただきました。また、職員も体

調管理表に毎日記入し、体調管理に努めました。また、コロナに感染した時の対応手順を職員で周知しました。

保育所内の消毒は朝、昼に行い特に手すり・取っ手・スイッチ・玩具等、よく触るところは回数多く丁寧に言い記録を取りました。体温チェック・体調チェックも登園時、午睡前、おやつ後に行いました。

- 保健指導・健康管理計画に基づき毎月職員会議の場でリスク予防の研修を行いました。(嘔吐処理セットの見直し(2か月に1回)・嘔吐時の処理方法のシミュレーション・ケガをした時の対処の方法、感染症、コロナに関しては適宜行いました。
- 災害時に備えて備蓄品の点検、整備を2月に行いました。期限の近いものは給食室で給食食材やおやつとして使用し、順次補充を行いました。
- 様々な場面、時間を想定した、地震、火災、津波の避難・消火訓練を毎月1回行いました。
- 食物アレルギーマニュアルの勉強会を行い、給食・おやつの提供の方法を職員で確認しました。また、土曜日の給食献立からアレルギー食材は除いています。
- S I D S、溺水の救命や救急車要請等職員間で役割を決め訓練を行いました。
- 防災センター(火災、地震体験)の体験学習に5歳児が参加しました。

⑪その他

- 床の清掃ワックスがけを行いました。
- 4・5歳児の机、次亜塩素酸空間除菌脱臭機2台を補助金にて購入しました。